

瀬田川等の下流域における外来水辺植物3種の生育に関するメモ

近江ウェットランド研究会

◆瀬田川における外来水辺植物3種の生育概況

3種の生育確認地点数と生育面積を表1にまとめた。なお、現地調査は2013年10月上～中旬に実施したが、その直前の9月中旬に台風による激しい掃流があった。そのため、今回の調査結果は台風以前の状況とはかなり様相が変化していたと考えられるので、その点に関する注意が必要である。

表1 瀬田川ー外来水辺植物3種の生育面積（2013年10月）（地点数）生育面積[m²]

種名	左岸上流	左岸下流	右岸上流	右岸下流	瀬田川総計
オオバナミズキンバイ	(7) 250	(16) 193	(11) 580	(1) 3	(35) 1,026
ナガエツルノゲイトウ	(4) 304	(15) 140	(3) 36	(1) 0.2	(23) 480
ミズヒマワリ	(18) 947	(2) 9	-----	-----	(20) 956

（上流・下流の境界：京滋バイパス橋梁）

瀬田川は浅場の少ない直線的な急流河川で、基本的には「水辺植物の生育に適した浅い停滞水域」の少ない環境である。それにもにもかかわらず、これほど多くの外来水辺植物の生育が認められたことは、琵琶湖からの流出量（瀬田川への供給量）が如何に多いかを物語っている。なお、各生育地においては、台風時の掃流により生育密度が低下した場所が少なくなかった。

3種の分布状況を見ると、ミズヒマワリは左岸側のみに生育しており、ナガエツルノゲイトウも左岸側に多い。両種とも規模が大きな群落が分布するのは、ヤナギ林が流心側に突き出した場所に形成された浅水域やヨシ・マコモ等の育成のために造成された人工的な浅場である。

オオバナミズキンバイは、現状では右岸側の京阪石山寺駅地先のヨシ原の流心側の浅場に位置するものが最も大規模であるが、これらの群落はチクゴスズメノヒエ群落に侵入するかたちで生育域を広げている。なお、ネット情報によれば、名神橋梁の直下流左岸に大規模群落が形成されていたが、これらは8月中に瀬田川輪漁協を中心とする有志団体によって駆除された。

◆下流域における外来水辺植物の生育概況

◇瀬田川中下流（瀬田川洗堰～鹿跳橋）

広い浅場が広がり、チクゴスズメノヒエ群落が広がる瀬田川洗堰下流～大戸川合流点一帯については、上記3種の生育が予想されたが、いずれも生育は認められなかった。台風の掃流により一掃されたものと考えられる。

◇天ヶ瀬ダム湖

天ヶ瀬ダム湖は、喜撰山揚水発電所の稼働により湖水位が短時間に大きく変動する特異な環境の水域であり、両岸の斜面が急傾斜で湖に落ち込んでいる部分が大部分を占め、水辺植物の生育が可能な浅場がみられるのは大石周辺と曾束周辺のみであるが、両地区とも3種の生育は認められなかった。

◇宇治川（天ヶ瀬ダム～観月橋のみ調査）

天ヶ瀬ダム～宇治橋の区間は岩盤の露出する急流で、水辺植物の生育可能な場所は少ない。宇治橋より下流については、泥土の堆積した広い浅場が散在することから、上記3種の生育が予想されたが、これらの生育は認められず、泥土上に生育が認められた植物の多くはヤナギタデやオオイヌタデであった。

◇淀川中流（三川合流点～枚方大橋）

上記3種のうち、ナガエツルノゲイトウのみ生育が確認された。上流区間については、泥土が堆積した場所に小規模な群落の散在のみであったが、下流の枚方大橋周辺では、泥土の堆積した岸辺に広い面積にわたってマット状の高密度群落の地表を覆っていた、これらのナガエツルノゲイトウについては、琵琶湖起源の個体群である可能性が否定できない。

◇淀川下流（鳥飼大橋～淀川大堰）

城北ワンド群を中心に、上記3種のうち、ナガエツルノゲイトウとミズヒマワリの生育が確認された。このうち、かつてワンドで大繁茂していたミズヒマワリは関係者の駆除努力により激減し、現在は僅かな個体が散在するのみである。

一方、ナガエツルノゲイトウは、ワンド等の水域部分については、駆除作業によって大規模な群落は減少しているものの、泥土が堆積した岸辺に大部分には、マット状の高密度群落が定着しており、「もはや回復不能」と思わせるような深刻な状態が展開していた。

◇まとめ

今回実施した下流域の調査では、明確に琵琶湖起源のものと断定できるような上記3種の定着は確認されなかったが、これについては9月中旬の台風時の激しい掃流によるところが大きいと考えられ、今後とも事態の推移を注意深く見守っていく必要がある。

いずれにしても、外来水辺植物の琵琶湖からの流出防止に、これまで以上に尽力する必要があるだろう。



図 瀬田川外来水辺植物生育状況－1／3（上流）

＜近江ウェットランド研究会／2013年10月調査＞

K(赤字) オオバナミズキンバイ **N(黒字)** ナガエツルノゲイトウ **H(緑字)** ミズヒマワリ

※数字：(群落の短径[m]×長径[m])×植被率[%]

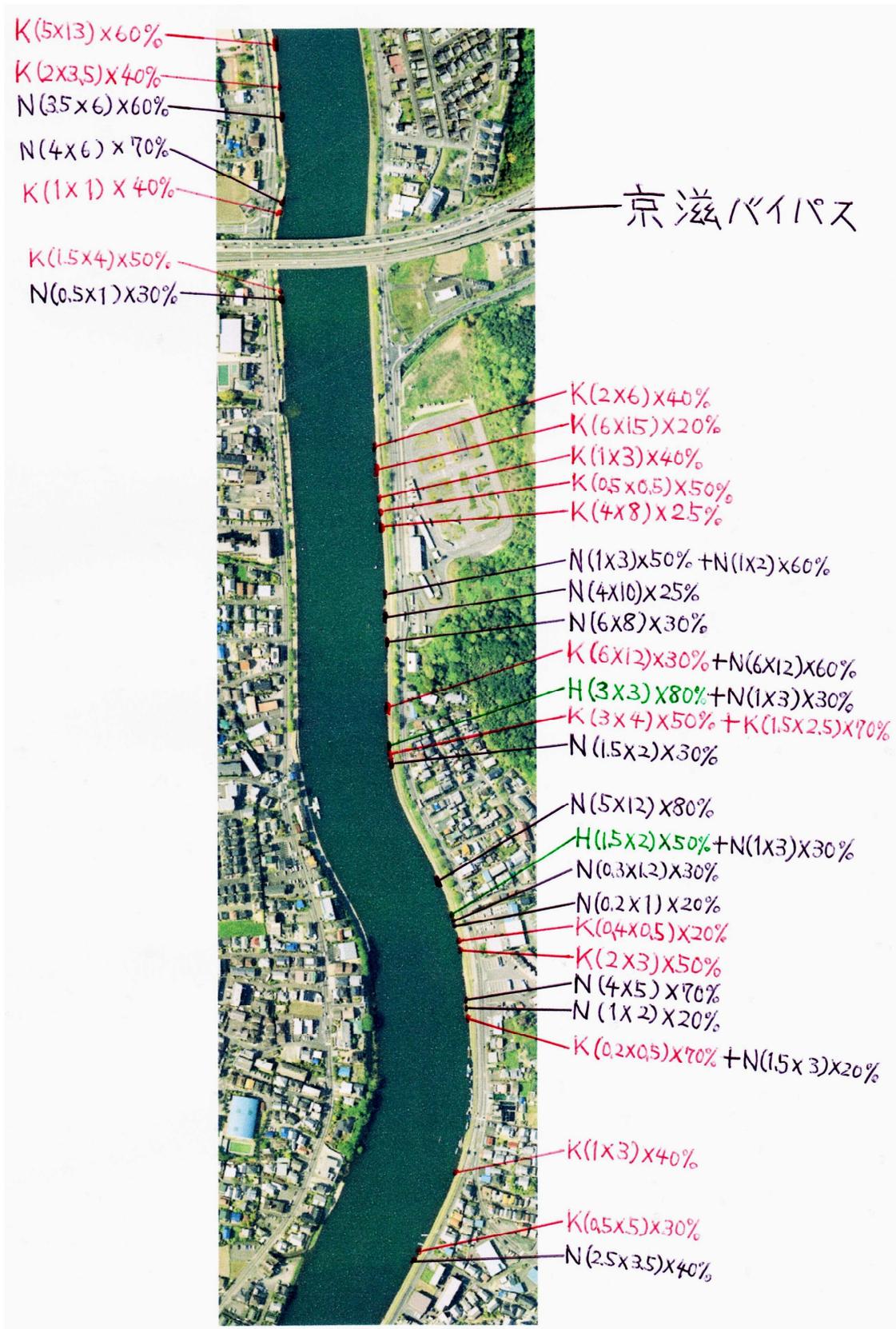


図 瀬田川外来水辺植物生育状況－2 / 3 (中流)

<近江ウェットランド研究会 / 2013年10月調査>

K(赤字) オオバナミズキンバイ N(黒字) ナガエツルノゲイトウ H(緑字) ミズヒマワリ

※数字：(群落の短径[m] × 長径[m]) × 植被率[%]

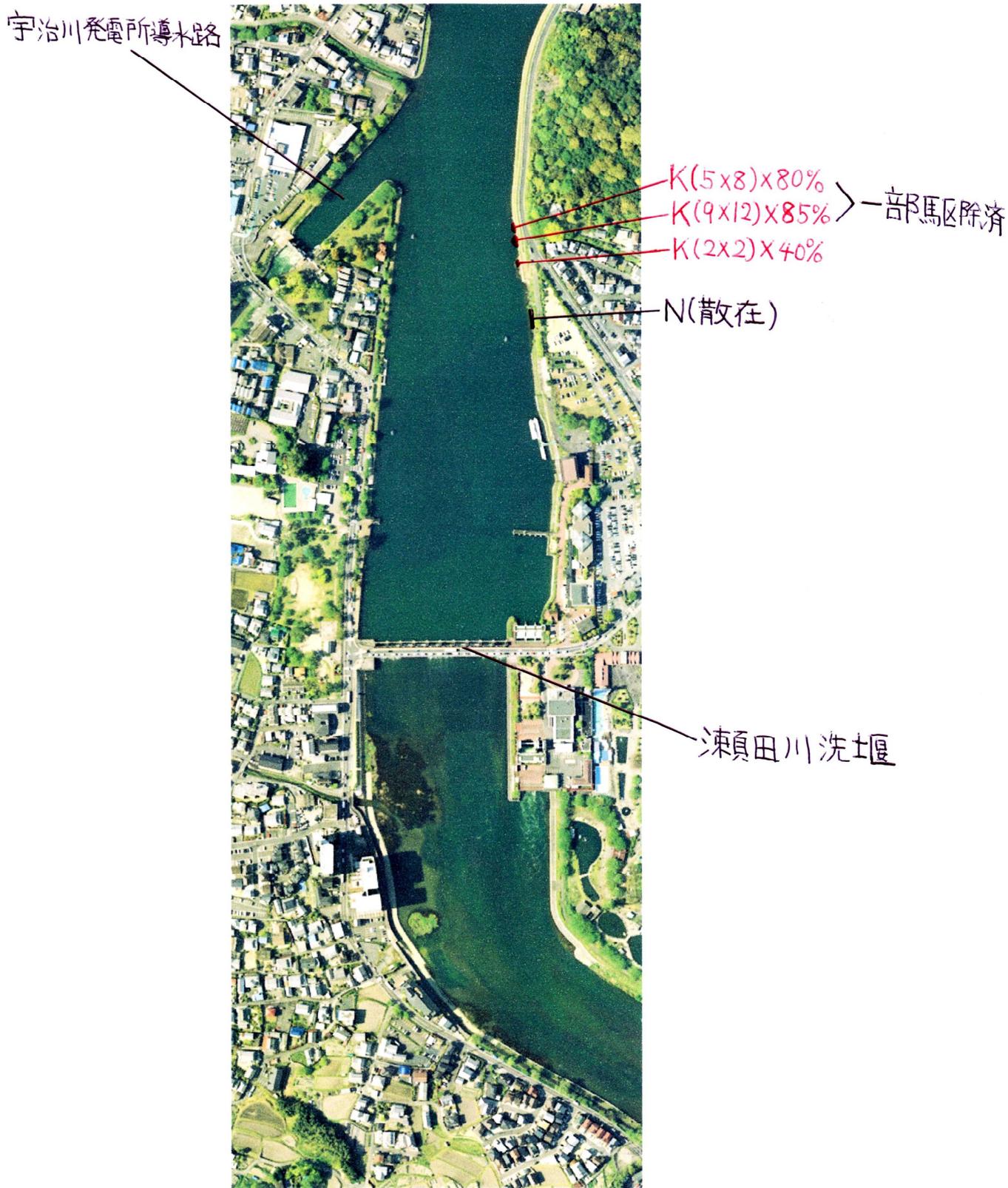


図 瀬田川外来水辺植物生育状況－ 3 / 3 （下流）

＜近江ウェットランド研究会／2013年10月調査＞

K(赤字) オオバナミズキンバイ **N(黒字)** ナガエツルノゲイトウ **H(緑字)** ミズヒマワリ

※数字：(群落の短径[m] × 長径[m]) × 植被率[%]